

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校

令和7年度 学校だより

3 月 号

福生第七小学校

ホームページ

URL

<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>



所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和8年2月27日 発行

虹色に輝く 未来に向かって

校長 菅野 恭子

3月を迎え、いよいよ卒業・進級を迎える季節となりました。子どもたちは学年のまとめと次への準備をしながら、6年生を送る会や卒業に向けて全校で取り組んでいます。学級や学年で生活する時間も残すところあと1か月となりました。子どもたちも限られた時間を大切に過ごしています。

保護者や地域の皆様には、この一年間、本校の教育活動にご理解とご協力いただきありがとうございました。今年度は、コミュニティ・スクールの新たな一歩として、「学校と地域が共に目指す地域像や子どもの姿」を教職員とCS委員が一緒になって作成しました。このことで、未来のこの地域を担う人材や子どもたちを学校・地域・家庭が手を取り合いながら共に育てる意識が少しずつ高まってきたと感じています。その一例としては、地域人材や地域資源を活用した学習に加え、週末に学校を開放し地域の方を講師として子どもや保護者の他、入学予定の未就学児童や七小学区の地域住民の方々などが参加できるワークショップを開催できたことです。学校を核として様々な方々がつながれる機会が設けられたこと、地域めぐりをした際に「七小のためにできることがありましたら協力します」と多くの地域の方々がおっしゃってくださったこと、心から感謝申し上げます。次年度も、学校の取組をとおして地域や保護者が「かかわり、つながれる」機会の充実に取り組んでいきます。

虹色に輝く 未来に向かって

この1年間を振り返ってみると子どもたちが大きく成長したことに喜びを感じています。4月の学校だよりでは、「力強く しなやかに 未来を切り拓く子どもたちに ~かかわり・つながり・高め合う~」という言葉を用いて、子どもたちの育成指針を示しました。学校生活は社会の縮図であると言っても過言ではありません。学習面や生活面、人とのかかわり方の基礎・基本を繰り返し身に付けていきます。

現在は変化や進化がめまぐるしい世の中ですが、子どもたちが社会に出るときには今以上に多様な価値観の中で自分らしさを生かしながら生き抜く力が必要となってくるでしょう。「こうすればよい」という考え方を受け身ではなく、自分から見つけ出してやり抜く力が欠かせなくなります。だからこそ、子どものうちから「失敗を怖がらず、挑戦すること」や「うまくいかなかったときの乗り越える精神力」、「喜びを分かち合ったり困難に立ち向かうために支え合ったりするチームワーク」などについて経験を重ねることが大切です。また、「自分と向き合いながら得意・不得意に気づき、苦手を克服する経験とともに、得意を大いに伸ばすこと」などが大切になってきます。

1年間を通して、学級や学年で児童の実態に応じて上記のような様々な取組を実施してきました。時にはもどかしさや上手くいかない状況などから心が折れそうなこともあったかと思いますが、各ご家庭で子どもの状況を受け止め、支え、励ましながら、学校と連携をとってくださったからこそ乗り越えられたことが多くあったと思います。ありがとうございました。

学校では常に子どもの今と未来の姿、地域・社会の今と未来の姿を見ながら取り組んでいます。そこに「笑顔や明るい未来が見える」それが何よりの幸せです。

未来は一つではありません。一人一人に良さがあり、子どもの数だけそれぞれに輝く未来があります。子どもたちがそれぞれの魅力を尊重し、自信をもって未来に向かっていけるよう引き続き取り組んでいきますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



令和7年度 七小の校庭にかかった大きな二重の虹